

能登 いまい農場だより 2月号

お買い上げ頂き、ありがとうございます。
軒下の雪はまだ残っていますが、少しずつ春めいてきたように感じています。
皆様、いかがお過ごしですか。インフルエンザがはやっていることもあり、体調管理に気をつけ、寒さ厳しい冬を乗り切りたいものです。

■いしかわ百万石マルシェ2017冬に参加

2月3日、石川県が主催して、県内の企業や生産者が栽培加工した農水産商品売り込むための首都圏での商談会、それを「百万石マルシェ」と名付け、開催されました。食品を取り扱う飲食店やバイヤー達約200人が参加し、新宿区神楽坂の料理店を貸し切って行われました。今回で20回目の開催になり、最近は年に2回おこなわれています。30社(個人含む)がそれぞれ商品を持ち込み、アピールするのですが、当農場も初めて参加しました。

当農場は、有機米、特別栽培米のほか、「香ばし米つぶ」(右下写真・内容量150g)と銘々した、有機玄米を煎った試供品を展示しました。今回はそれを飲料として、来店のお客様に試飲していただきましたが、結構好評でした。(商談会に参加した長男の話)

緑茶葉と混合しようか迷ったのですが、農薬を一切使用していない有機米を原料としているため、そのままのほうが、子どもから、お年寄りまで、ノンカフェインの飲料としてお勧め出来ると思ったわけです。ビタミン、ミネラル、食物繊維がたっぷり含まれています。水に浸すと、やわらかくなり、消化吸収が良く、お粥としてもいけます。もちろんそのままお菓子代わりに召し上がっていただいても結構です。アレンジして粉末にすれば、玄米コーヒーとしてもいけるのではと思っています。

これをどのように販売するか、考慮中です。次回には試供品を皆様方にも少しですがお送りしたいと思っています。

■春作業の準備

田んぼの雪が溶けてほとんど無くなりました。3月半ばまで雪がちらつくことはあっても、あまり積もらないのでは？と勝手に思っています。今年は春先にちょっと大きめのパイプハウス2棟(間口6メートル×長さ50メートル×2)を立てるつもりで、昨年旧パイプハウスの撤去等をおこなっています。稲の育苗用として使用するため、4月上旬までには立ててしまいたいため、準備しているわけです。

畦の補修や、あぜ塗り作業もあり、今年の春は結構忙しくなりそうです。

■裏面に金沢での販売の様子を北陸中日新聞に載せていただきましたので、貼付しました。



開発した農産加工品販売

めいてつ・エムザ 6次産業化へ農業者



買い物客に商品を手渡す受講生＝金沢市武蔵町で

県内の農業者が、自らの農作物で開発した加工品を販売するイベントが十日、金沢市武蔵町のめいてつ・エムザで始まった。十九日まで。

いしかわ農業総合支援機

県内の農業者が、自らの農作物で開発した加工品を販売するイベントが十日、金沢市武蔵町のめいてつ・エムザで始まった。十九日まで。いしかわ農業総合支援機が開く「いしかわ耕稼塾『六次産業化研修トライアルコース』」で学んだ県内の農業者ら八グループが計十九点を出品。持ち回りで店頭に立ち、自身の商品をPRした。

いまい農場(中能登町)

の今井耕平さん(三)は、自らが育てた玄米をいった「香ばし米つぶ」を出品。

「化学肥料を使わず、環境を大事にしながら育てた米で作った。お客さんの生の声が聞こえるのでいいですね」と話し、買い物客に商品の玄米を使った玄米茶の試飲を呼び掛けている。

塾は、農業者が収穫した作物を自らが加工し販売する「六次産業」を推進することで、農業の担い手を確保し、収入を安定させるのが狙い。取り組みは今期で六年目で、マーケティングや商品デザイン、接客方法などを学ぶ。

(岡本真穂)